

Avalon VT-737sp Tube Channel Strip

Hip-HopとR&Bで大人気サウンドをUADに搭載。

ヒットチャートに並ぶHip-HopやR&Bプロダクションで絶対的な人気機種AvalonのフラッグシップVT-737sp channel stripは、これまでに作られた中でベストセラーのスタンドアローン・チャンネルストリップです。Jay-Z、Dr.Dre、Wiz Khalifa、そしてR&BのレジェンドBabyface、Beyonceに至るまで、VT-737spは一貫して洗練された結果を、どんなリスニング環境でも艶と質感のあるサウンドを提供します。

UADハードウェアとUAオーディオインターフェイス専用に開発され、Avalon Designから承認を受けたAvalon VT-737 Tube Channel Stripプラグインは、現代のポピュラーミュージックのヒットソングで使用されたチャンネルストリップのサウンドををキャプチャーしています。

新機能：

- Avalon VT-737アナログ・チャンネルストリップの正確なエミュレーションを使用してトラッキング & ミックス
- Unison™テクノロジーを使用して、オリジナルハードウェアのチューブアンプ・ベースのマイクプリアンプの特性をフル活用
- お馴染みのAvalonの艶と存在感をベースやボーカルに加える
- ボーカルを落ち着かせるオプティカルコンプレッサーでソースに安定感を与える
- 4バンドEQでサウンドを整え、32kの“Air”バンドを使用してハイエンドの存在感をコントロール
- Universal Audioアーティストが作成したプリセットとのミックス

Capturing the Sound of Modern Music

ユニットの個体差によるばらつきを複数のAvalon 737をテストした後に、UAチームは理想的なオプティカルコンプレッションレスポンスを備えた“ゴールデンユニット”を選択しました。UAのDSPチームは、カスタムハードウェアトランス、LEDスタイルのオプティカルコンプレッション、ディスクリート4バンドEQを使用して、ターゲットとなるハードウェアのクラスAチューブアンプセクションを正確に再現しました。

UAオーディオインターフェイスのためのUnisonテクノロジー

UAの画期的なUnisonテクノロジーを活用したAvalon VT-737プラグインは、ハードウェアのライン/マイク・プリアンプインピーダンス、ゲインステージの“スイートスポット”、サウンドの濁りやローエンドのもたつきを簡単に取り除く穏やかなハイパスフィルターを含む、すべての回路の動作を忠実に再現し、オリジナルのAvalonハードウェアのクリーンできめ細やかなサウンドを提供します。また、VT-737のフロントパネルHi-Z入力を使用すると多くの人に愛用されたベースDIとして使用でき、VT-737 Channel StripプラグインのUnison対応Hi-Z入力は厳しい評価にも耐え、オリジナルのハードウェアと区別がつかないことを実感できるでしょう。

多彩なオプティカルコンプレッション

VT-737プラグインのダイナミクスセクションは、ボーカル、ベース、アコースティックギター、ナレーションでの使用に優れ、サウンドを潰したり、歪ませたりするのではなく、ハードウェアの穏やかなタッチをエミュレートしています。比較的クリアなコンプレッションにより、ミックスダウン時にコンプレッサーを重ねて使用し、タイトなミックスでリードボーカルのダイナミクスを巧みにコントロールする場合に最適です。また、プラグインのみの超高速モードによる“X4”超高速アタックが使用でき、VT-737を物理的な限界を超えて新しいダイナミクスへの多彩な対応を提供します。

EQによる繊細な調整

Avalon VT-737 Channel Stripプラグインは、ハードウェアのディスクリート4バンドEQを精巧にエミュレートし、リードボーカルをよりリアルで存在感のある洗練されたサウンドに調整でき、あらゆるミックスの中心に置くことが可能です。ハードウェアと同じようにEQをコンプレッサーの前後に配置することができるので、サウンドの多様性が増し、中域はレーザーでフォーカスを当てたようなコンプレッションのためのサイドチェイン・フィルターとして使用することができます。また、32kの高周波数“Air Band”により、ストリングスからバックグラウンド・ボーカル、アコースティックギターまであらゆるソースに繊細な輝きを与えることができます。

お好きなUADハードウェアを使用してチャートトップのシーンを加える

もちろん、Avalon VT-737 Channel Stripは、UAオーディオインターフェイスのオーナーだけのものではありません。UADハードウェアのオーナーは、あらゆるミックスでVT-737 Channel Stripプラグインを使用して、ソースに伝説的な太いボトムと“ガラスのような”トップエンドの質感、クリアなカラーを与えることができます。

主な特長

- Avalon Designからライセンスを受け、Universal AudioがモデリングしたVT-737sp
- タイトでフォーカスの合ったボーカルやベースに特化した究極のR&B、Hip-Hopのパフォーマンス&プロダクションツールとして名を馳せました
- B7Aによる最高水準の設計：高ヘッドルームのチューブマイクプリアンプ、オプティカルコンプレッサー、ディスクリート4バンドEQ
- Unisonテクノロジーを使用した、マイク、ライン、Hi-Z入力を備えたフィードバックスタイルの58 dBチューブマイクプリアンプ
- トランス、チューブアンプ、パッシブインダクタベースのフィルター、オプティカル・ゲインリダクションなど、VT-737spのサーキットパス全体をモデリング
- コンプレッサーサイドチェインのリンク/アンリンクやEQプリダイナミック、EQサイドチェインフィルタリング、ハイQやフリーケンシーマルチプラー
- UnisonIによるゲインステージングとその他のプリアンプパラメーターの物理インプットインピーダンスやフロントパネル・コントロール



Avalon VT-737spインターフェイスのシルバー&ブラックパネル

操作について

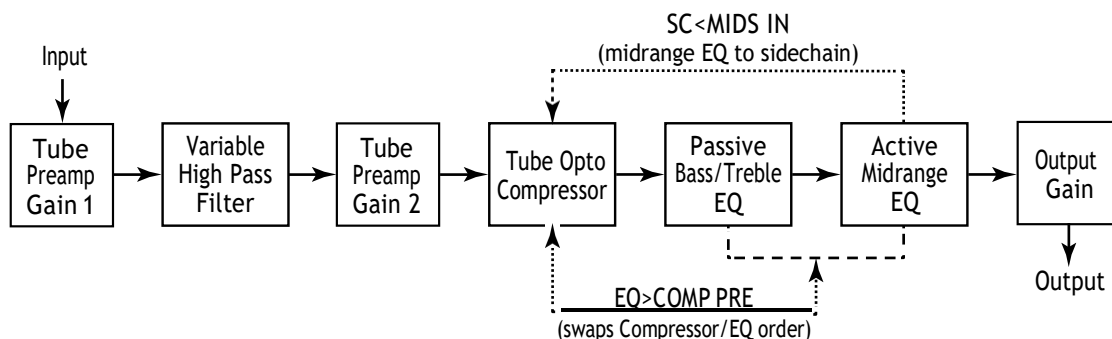
このセクションでは、Avalon VT-737sp チャンネルストリップの操作について一般的な概要を説明します。個々のコントロールの具体的な説明は、後述する“Avalon VT-737sp Channel Strip のコントロール”をご覧ください。

ヒント: VT-737spアプリケーションノートについては、この章の最後を参照してください。

シグナルフロー

Avalon VT-737spはペアのトランスを使用したデュアルバキューム・チューブプリアンプとオプト式コンプレッサー、高電圧のディスクリートクラスA 4バンド・パラメトリックイコライザーを組わせています。

プラグイン内の信号フローを簡略化した図を以下に示します。デフォルトでは、信号は最初のチューブ・ゲインステージから入り、ハイパスフィルターに出力され、次に2番目のチューブゲインステージ、コンプレッサー、EQ、および出力回路に出力されます。EQモジュールは、“EQ>COMP”オプションを使用することにより、必要に応じてダイナミクスモジュールの前にルーティングできます。“SC <MIDS”オプションを使用すると、EQミッドバンドがダイナミクスサイドチェーン信号のみに作用し、オーディオ信号パスからミッドレンジEQが削除されます。



Avalon VT-737sp内を簡略化したシグナルフロー

Unison™ インテグレーション

UAD Avalon VT-737spチャンネルストリッププラグインは、Universal AudioのApolloやArrowオーディオインターフェイスのマイクプリアンプハードウェアと統合して使用するためにUnisonテクノロジーに対応しています。を備えています。Unisonインターフェイスにより、クリアなマイクプリアンプは、エミュレートされたプリアンプのユニークな音響、入力特性、機能をすべて継承します。

注：Unisonは、プラグインがApollo / Arrowコンソールアプリケーション内の専用UNISONインサートに配置されている場合にのみ使用可能になります。詳細については、ApolloソフトウェアマニュアルまたはArrowマニュアルのUnisonの章を参照してください。

Unisonの使用中、ハードウェアプリアンプはモデリングしたプリアンプの物理的な入力インピーダンスに適応します。UAのクリアなアナログアンプと組み合わせると、クリーンからクリッピングまで幅広いプラグインのゲインとトーンのレンジを提供し、音楽的なスイートスポットを広げることができます。

リアルなタンデムコントロール

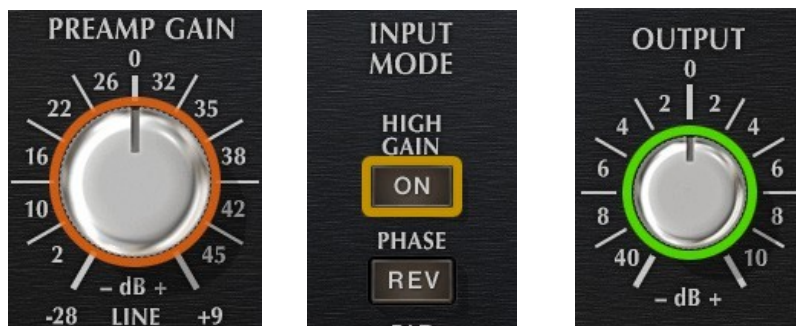
Unisonは、UAオーディオインターフェイスのデジタルコントロールをしているパネルハードウェアとUADプラグインのインターフェイスとの両方を使用して、プラグイン設定をシームレスにインタラクティブコントロールが可能です。すべてのプリアンプコントロール(ゲイン、カットフィルター、パッド、フェイズ)をミラーリングし、どちらからもコントロールすることが可能です。

ハードウェアの入ットインピーダンス

すべてのApollo マイクプリアンプは、可変入力インピーダンスを装備しており、Unison プラグインによって、マイクとプリアンプ抵抗の間の相互作用を物理的に切り替えることができます。このインピーダンスの切替えは、物理的にApolloのプリアンプがエミュレートしているユニットの入ットインピーダンスと一致させることができ、マイクのサウンドに大きな影響を与えます。電氣的な負荷はA/D変換前の入力で発生するため、オリジナルのハードウェアに忠実に実行されます。

タクティカル・ゲインステージング

UAオーディオインターフェイスのプリアンプノブは、ゲインステージモードを使用してUnison プラグイン内のすべてのゲインと使用可能なレベルパラメーターを独立してコントロールすることができます。調整中のゲインステージは、物理的なハードウェアノブを使用してコントロールできるため、ハードウェアのノブからゲインレベルや関連するカラーを調整し、ソフトウェアのインターフェイスに触れることなく正確な物理的にふれてコントロールすることができます。



Unisonゲインステージモードのときに表示されるゲインコントロールの3色のライン

アーティストプリセットへのアクセス

Avalon VT-737sp Channel Stripには、著名なアーティストが作成したプリセットを収録しています。アーティストプリセットは内部のファクトリープリセットにあり、ホストアプリケーションのプリセットメニューからアクセスすることができます。それらは、Console アプリケーションでも使用できるよう、UAD インストーラーと一緒にインストールされます。

追加のアーティストプリセットには、ホストDAWアプリケーションのプリセットメニュー、UADツールの“Settings”メニュー、またはConsoleのプリセットマネージャーからアクセスできます。

ヒント: オリジナルのAvalon VT-737sp マニュアルに記載されていたセッティングもプラグインプリセットとして収録しています。

Eric J Dubowsky	Ian Boxill	Michael Brauer	Mike Larson
Hector Delgado	Ivan Barias	Mike Dean	Richard Robson

Avalon VT-737spチューブチャンネルストリップのプリセットを提供したアーティスト

パネルビューの変更

UAD Avalon VT-737spプラグインは、パネルビューをシルバーとブラックの2種類から選択して表示することができます。表示モードを切り替えるには、インターフェイス左側にあるVT-737sp ロゴをクリックしてください。



ロゴをクリックしてパネルビューを変更する

Avalonによるアプリケーションノート

VT-737spのアプリケーションノートは、AvalonのWebサイトにあるAvalonのオリジナルのハードウェア・オペレーションマニュアルに記載されています。:

- www.avalondesign.com

Avalon VT-737sp Tube Channel Stripのコントロール

Unisonインタラクションについて



コントロールの説明の中には、「Unison Interaction」の見出しで始まり、左側に「Unison」のアイコンが表示されているものもあります。これらのセクションの説明は、プラグインがConsoleアプリケーション内のApollo/Arrowプリアンプチャンネル上の専用UNISONインサートに配置されている場合にのみ適用されます。プラグインをConsoleの標準インサート(非Unisonインサート)やDAW内で使用する場合、これらの説明は適用されません。

注：詳細については、ApolloソフトウェアマニュアルまたはArrowマニュアルのUnisonの章を参照してください。

プリアンプコントロール

プリアンプゲイン

この連続可変ロータリーコントロールは、入力信号に適用されるゲインの量を調整します。ゲインを上げると、回路がより強くドライブされ、プリアンプにより多くのチューブトーンがかかります。このコントロールは、さまざまなサウンドと色の最小レベルと最大レベルで使用できます。

ヒント：テキストラベルの“0”をクリックするとコントロールをゼロの位置に戻します。

インプットセレクトの設定によって異なる数値でプリアンプのゲインレンジを使用することができます。

- MICに設定した場合、ゲインの範囲は0 dB～+45 dBです。
- LINEに設定した場合、ゲインの範囲は-28 dB～+9 dBです。
- Hi-Z入力が接続されている場合(Unisonモードのみ)、ゲイン範囲は-30 dB～+10 dBです。

注：ノブのシルクスクリーンラベルは、一般的なゲインのガイドラインを目的としています。ノブの値はキャリブレーションされていません。



Unisonインタラクション

インプットインピーダンス

プリアンプのハードウェア・インプットインピーダンスは、物理的なマイクからプリアンプへの抵抗性インタラクションがオリジナルのハードウェアと一致するように自動的に切り替えられます。

ハードウェアコントロール・モニタリング

このコントロールのソフトウェアとハードウェアの調整はミラーリングされています。設定は、consoleのプリアンプゲインノブ、またはUAオーディオインターフェイスのメイン・ハードウェアレベルノブを使用してプラグイン内をコントロールすることができます。

ゲインステージ・モード 1

プラグインがConsoleアプリケーション内のUnison専用インサートスロットで使用され、チャンネルがUnisonゲインステージ・モードになっている場合、UAオーディオインターフェイスのハードウェア・プリアンプノブを使用して、プリアンプゲインを調整できます。この状態では、オレンジ色のリングがこのパラメーターを囲んでおり、ハードウェアコントロールで使用できることを示しています。

ヒント: ゲインステージ・モードを起動、終了する方法については、ApolloソフトウェアマニュアルまたはArrowマニュアルのUnisonの章を参照してください。

インプットセレクト

インプットセレクトは、プラグインをライン入力とマイク入力の間で切り替えます。設定を切り替えるには、テキストラベルのLINE、MICをクリックするか、コントロールを回転させてください。

重要: インプットをマイクからラインに切り替える場合、信号出力レベルが大幅に増加する可能性があるので注意してください。(ハードウェアプリアンプの場合と同様)。

このコントロールは、プリアンプゲインコントロールと相互作用します。インプットセレクトの設定を変更すると、ゲインレンジと使用可能なゲインの量が変わります。



Unisonインタラクション

ハードウェアコントロール・ミラーリング

このコントロールは、ソフトウェアとハードウェアによる調整がミラーリングされています。設定は、プラグインインターフェイス内、Consoleのプリアンプ・インプットコントロール、UAオーディオインターフェイスのハードウェア・インプットボタンで変更可能です。

オートマチックHi-Zセレクト

¼インチのアンバランス(TS - チップスリーブ)ケーブルがApollo/ArrowのHi-Zインプットに接続されると、インプットセレクトはマイクにロックされ、使用可能なゲインレンジは-30 dB ~ +10 dBに変わります。

ハイゲイン

このスイッチは、プリアンプの全体的なゲインを高くします。ハイゲインモードは、ボタンが赤く点灯しているときはハイゲインモードで使用できます。

インプットセレクトで“LINE”に設定すると、プリアンプのゲインが+8 dB増加します。インプットセレクトが“MIC”に設定されている場合、プリアンプのゲインは+18 dB増加します。このシグナルブーストは、チューブステージをオーバードライブさせアウプットコントロールと組み合わせ使用することができます。ソフト・チューブオーバードライブから強烈なディストーションまで、さまざまな歪みをハイゲインブーストによって提供します。

Unisonインタラクション

ゲインステージ・モード2

チャンネルがUnisonゲインステージ・モードになっている場合、UAオーディオインターフェイスのハードウェア・プリアンプノブを使用して、ハイゲインを調整できます。この状態では、アンバー色のリングがこのパラメーターを囲んでおり、ハードウェアコントロールで使用できることを示しています。

ヒント: ゲインステージ・モードを起動、終了する方法については、ApolloソフトウェアマニュアルまたはArrowマニュアルのUnisonの章を参照してください。

パッド

パッドをオンにすると、インプット・シグナルレベルが20 dB減衰(低下)します。スイッチが赤く点灯しているとき、パッドは動作中です。ボタンまたはテキストラベルをクリックして、状態を変更可能です。

パッドはプラグインのみで使用可能です。;オリジナルのハードウェアでは使用できません。パッドは、プリアンプのゲインレベルを低く設定していても、望ましくないオーバーロードディストーションが発生する場合に信号レベルを下げるために使用可能です。

注: インプットセレクト“LINE”に設定されている場合、パッドは使用できません。

Unisonインタラクション

ハードウェアコントロール・ミラーリング

このコントロールは、ソフトウェアとハードウェアによる調整がミラーリングされています。設定は、プラグインインターフェイス内、Consoleのプリアンプ・インプットコントロール、UAオーディオインターフェイスのハードウェアPADボタンで変更可能です。

Hi-Z 接続

1/4インチのアンバランス(TSチップ-スリーブ)ケーブルをApollo / ArrowチャンネルのHi-Zインプットに接続すると、パッドは自動的に外れます。Hi-Z入力ではパッドは使用できません。

フィルター

このスイッチは、6 dB/オクターブのハイパス・インプットフィルターをオンにします。スイッチが赤く点灯すると、インプットフィルターがオンになります。ボタンまたはテキストラベルをクリックするとオン/オフを切り替えることができます。

注: インプットフィルターのカットオフフリークエンシーは、ハイパスフリークエンシー・コントロールで調整することができます。.

Unisonインタラクション

ハードウェアコントロール・ミラーリング

このコントロールは、ソフトウェアとハードウェアによる調整がミラーリングされています。設定は、プラグインインターフェイス内、Consoleのプリアンプ・インプットコントロール、UAオーディオインターフェイスのハードウェア・インプットボタンで変更可能です。

ハイパスフリークエンシー

ハイパス・インプットフィルターの連続可変周波数をコントロールする。使用可能なレンジは、30 Hz ~ 140 Hzです。

注: フィルタースイッチがオフの場合、このコントロールは影響がありません。

フェイズ

入力された信号の極性を反転させます。スイッチが赤く点灯すると、位相が180°反転します。オフ(消灯)時は、通常の極性のままです。ボタン、テキストラベルとクリックするとオン/オフを切り替えることができます。

複数のマイクを使用して1つのソースをレコーディングする場合、極性を反転させると位相キャンセルを減らすことができます。フェイズは、クリエイティブなエフェクトにも使用することができます。



Unisonインタラクション

ハードウェアコントロール・ミラーリング

このコントロールは、ソフトウェアとハードウェアによる調整がミラーリングされています。設定は、プラグインインターフェイス内、Consoleのプリアンプ・ポラリティコントロール、UAオーディオインターフェイスのハードウェア・ポラリティ(Ø)ボタンで変更可能です。

コンプレッサーのノブ

注: 4つのコンプレッサーノブは連続可変です。

スレッシュホールド

スレッシュホールドは、入力信号にコンプレッションが適用される信号レベルを決定します。設定したスレッシュホールドより上の信号はコンプレッションされ、スレッシュホールドより下の信号はコンプレッションされません。

反時計回りに回すとスレッシュホールドが下がり、コンプレッションが増加します。使用可能なスレッシュホールドの範囲は、-30 dB ~ +20 dBです。

ヒント: ラベル“0”をクリックすると、ゼロの位置に戻ります。

コンプレッション(レシオ)

ゲインリダクション回路で適用するコンプレッションレシオを決定します。使用可能なコンプレッションレシオの範囲は、1:1(圧縮なし)から20:1までです。

たとえば、値が2(2:1の比率で表される)の場合、信号がスレッシュホールドを超えた場合は半分になり、20 dBの入力信号は10 dBに減衰されます。

注: 信号は、コンプレッション量によって減衰する前にスレッシュホールドを超える必要があります。

アタック

入力信号が スレッシュホールドレベルに達してからコンプレッションが始まるまでの時間を設定します。使用可能な範囲は約2ミリ秒から200ミリ秒です。

ヒント: Comp X4スイッチをオンにすると使用可能なアタックの範囲が4倍になります。

アタックを速く設定するほど、スレッシュホールドを超えた信号に対して素早くコンプレッションが適用されます。アタックが遅いと信号のトランジェント(弦のプラックなど)をコンプレッションせずに通過させ、パンチの効いたサウンドを作り出すことができます。

リリース

リリース は、入力信号がスレッシュホールド を下回ってからコンプレッション処理を停止するまでの時間を設定します。設定可能な範囲は、約 100 ミリ秒～5 秒です。

コンプレッサーのスイッチ

注:コンプレッサーのスイッチが点灯しているときはアクティブです。スイッチ、またはラベルをクリックするとオン/オフの状態を切り替えることができます。

EQ>Comp

PREスイッチが点灯している場合、EQ回路はコンプレッサー回路の前にルーティングされ、トーンの柔軟性が向上します。

メーター

GRスイッチが点灯しているときは、VUメーターにコンプレッション回路内でのゲインリダクション量が表示され、消灯しているときは出力レベルが表示されます。

Comp In

INスイッチが点灯しているときはコンプレッサーが作動中であることを示し、消灯しているときはダイナミクス処理がオフになります。

ヒント: UAD Meter & Control PanelでDSP LoadLockが無効になっている場合、コンプレッサーをオフにするとUAD DSPの負荷が減少します。

SC (サイドチェイン)リンク

プラグインがステレオインプットで使用され、INスイッチが点灯している場合、両方のチャンネル(L/R)のコンプレッサー・サイドチェインがリンクされ、両方のチャンネルは常に同じ量でコンプレッションされます。

サイドチェインをリンクすると、1つのチャンネルの信号ピークが他のチャンネルよりも高い場合に、出力での左右差を無くすことができ、インプットでのステレオイメージがキープされます。

ステレオインで使用時にこのスイッチが消灯している場合、両方のチャンネルで発生するコンプレッションの量は完全に独立しています。この場合、1つのチャンネルの信号ピークが他のチャンネルよりも高い場合、出力で左右のイメージが傾く場合があります。

注: モノインプットで使用する場合、このスイッチは使用できません。

Comp X4

Comp X4スイッチは、コンプレッサーのアタックコントロールのレスポンスを変更します。このスイッチは、オリジナルのハードウェアにはありませんが、利用可能なアタックタイムのスピードを4倍にします。この機能により、ドラムなどのトランジェントが豊富な素材など、幅広いソースのダイナミックコントロールが改善されます。

スイッチが点灯している場合、使用可能なアタックタイムのレンジはより高速です。消灯している場合、アタックノブのレスポンスはオリジナルのハードウェアと同じです。

EQのノブ

ベースゲイン

この連続可変ノブは、パッシブ・ローシェルフバンドの振幅を調整します。最大±24 dBのブーストまたは減衰が可能です。

ヒント: ラベル“0”をクリックすると、中央の位置に戻ります。

ベースフリークエンシー

このステップ式ノブは、ベースゲイン・ノブによってブーストまたはアッテネートされるエッジフリークエンシーを設定します。使用可能なベースフリークエンシーの値は(Hz): 15、30、60、および150です。

ヒント: ノブのテキストラベルをクリックして周波数値を選択することができます。

ローミッドゲイン

この連続可変ノブは、ローミッドレンジの振幅を調整します。最大±16 dBを連続的にブーストまたはアッテネートが可能です。

ヒント: ラベル“0”をクリックすると中央の位置に戻ります。

ローミッドフリークエンシー

この連続可変ノブは、ローミッドレンジの中心周波数を設定します。設定可能なレンジは通常 35 Hz～450 Hzです。バンドのX10スイッチがオンの場合、設定可能なレンジは350 Hz～4.5 kHzになります。

ヒント: ノブのテキストラベルをクリックして周波数値を選択することができます。

ハイミッドゲイン

この連続可変ノブは、ハイミッドレンジの振幅を調整します。最大±16 dBの連続ブーストまたはアッテネートが可能です。

ヒント: ラベル“0”をクリックすると中央の位置に戻ります。

ハイミッドフリークエンシー

この連続可変ノブは、ハイミッドレンジの中心周波数を設定します。設定可能なレンジは通常 220 Hz～2.8 kHzです。バンドのX10スイッチがオンの場合、設定可能なレンジは2.2 kHz～28 kHzになります。

ヒント: ノブのテキストラベルをクリックして周波数値を選択することができます。

トレブルゲイン

この連続可変ノブは、パッシブハイシェルフバンドの振幅を調整します。最大±20 dBのブーストまたはアッテネートが可能です。

ヒント: ラベル“0”をクリックすると中央の位置に戻ります。

トレブルフリークエンシー

このステップ式ノブは、トレブルゲイン・ノブによってブーストまたはアッテネートされるエッジフリークエンシーを設定します。設定可能な高音周波数の値は(kHz): 10、15、20、32です。

ヒント: ノブのテキストラベルをクリックして周波数値を選択することができます。



EQのスイッチ

注: EQスイッチが点灯しているときは機能がオンになります。スイッチ、またはテキストラベルをクリックしてオン/オフを切り替えることができます。

Hi Q

Hi Qスイッチは、ミッドレンジ・バンドの中心周波数を囲む周波数の帯域幅を設定します。消灯している場合、Q値は0.2であり、帯域幅は広いため、より広い周波数レンジに影響します。点灯時は、Q値は0.85になり、帯域幅が狭くなり、ピンポイントでのコントロールが可能になります。

注: 各ミッドレンジ・バンド(ロー/ハイ)には、それぞれにQスイッチがあります。

フリーケンシー X10

X10スイッチは、ミッドレンジ・バンドの中心周波数を10倍にして、バンドの使用可能な周波数レンジを広げることができます。

点灯時は、バンドのノブで設定された周波数が10倍されます。消灯しているときは、ノブポインターのテキストラベルが示す周波数を設定します。

注: 各ミッドレンジ・バンド(ロー/ハイ)には、それぞれにX10スイッチがあります。

サイドチェインEQ (SC<MIDS)

このスイッチは、サイドチェインEQ機能をオンにします。点灯時は、ロー/ハイミッド・レンジEQバンドがオーディオパスから取り除かれ、代わりにコンプレッサー・サイドチェイン信号をコントロール（“キー”）するためにルーティングされます。

サイドチェインEQは、通常ボーカルディエッシングや同様の周波数を選択したコンプレッションテクニックに使用されます。

ヒント: メインEQインスイッチがオフになっている場合でも、サイドチェインEQをオンにすることができます。

イコライザー・イン

イン・スイッチが点灯すると、EQ回路がオンになります。消灯している場合、オーディオ信号はEQ回路をバイパスします。イコライザースイッチがオフになっていても、サイドチェインEQ (SC<MIDSスイッチ)を使用できることに注意してください。

ヒント: UAD Meter & Control PanelでDSP LoadLockが無効になっている場合、EQがオフになるとUAD DSPの負荷が軽減されます。

アウトプット

この連続可変ノブは、最終的な出力レベルを調整します。利用可能なゲイン範囲は-40 dB ~ +10 dBです。

ヒント: ラベル“0”をクリックするとコントロールを中央の位置に戻ります。

VUメーター

VUメーターは、コンプレッサーのメータースイッチが 消灯しているときは、メイン出力レベルを表示します。コンプレッサーのメータースイッチが作動しているとき、VUメーターは、コンプレッサー回路内で発生しているゲインリダクションの量を表示します。

ヒント: VUメーターの針は、ゲインリダクションを表示する際の速度に敏感で、コンプレッサーの ATTACK と RELEASE コントロールを設定する際に役立ちます。

パワー

I/Oスイッチを使用して、プラグイン処理をバイパスし、UAD DSP を保存します。バイパスは、処理された信号と処理前の信号と比較する時に便利です。

ヒント: VUメーターの下の子赤い電源ランプは、電源スイッチとしても機能します。



Avalon VT-737spオリジナルハードウェア

Avalon VT-737spへの言及およびAvalon Designの商標の使用はすべてAvalon Industries, Inc.の書面による許可を得て行われています。Devin Powers、Tom Fritze、Anthony Morroに謝意を表します。